

■ 学校の共通目標

授業づくり	重 点	・学力を定着させるために、繰り返し学習や振り返り学習等を取り入れた授業づくりを行う。	中 間 評 価	・小テストやモジュールタイムを活用して繰り返しや振り返りができた。	最 終 評 価	
環境づくり		・ユニバーサルデザインを意識した教室環境づくりを行う。		・板書やカードなど視覚的な提示を意識してきた。		

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課 題（10 月）	改善のための取組み（10 月）	最終評価（2 月）	
1	国語	・ひらがなは定着したが、かたかなと漢字は正確に書くことができない児童が多い。 ・話をすることはできるが、作文に書くことは難しい。	・かたかなと漢字が正しく使えない。 ・文章の中で助詞（は・を・へ）を正しく使うことができない。	・毎週、漢字やカタカナを使った文の小テストを行い、習熟を図る。 ・ノートなどには、単語ではなく文で書く習慣を身に付けさせる。		
	算数	・計算に時間がかかる。 ・数の概念が育っていない児童がいる。	・くりさがりのひき算が正確にできない。 ・1 0 の構成が身についていない。	・授業ではブロックなどを操作する時間を確保する。たくさん操作させる。 ・毎時間、計算の練習を取り入れたり、一人一人の段階にあった問題に取り組みせたりして習熟を図る。		
学年	教科	学習状況の分析（4 月）	課 題（4 月）	改善のための取組み（4 月）	中間評価・追加する取組み（10 月）	最終評価（2 月）
2	国語	・説明文は、正確に読み取れるが、物語文での様子や心情の読み取りに苦手意識をもつ児童が見られる。 ・順序を追って作文することができるが、実体験の表現が中心になり、表現力に課題のある児童が多い。 ・文の中で漢字を正確に使う事が課題である。	・物語文における様子や心情の読み取りが十分でない。 ・五感を使って文章を書く経験が少ない。 ・漢字の意味を意識して使っていない。	・言葉や文から様子をイメージし、表現する経験を積ませるとともに、読書活動を充実させ、語彙を広げていく。 ・週1 回以上日記を書く習慣を身に付けさせ、五感を使って書くことを意識させる。 ・毎週、漢字を使った文の小テストを行い、習熟を図る。	・小テストを積み重ねることで漢字の力が付いてきた。 ・短い文をつなげて文章を作る経験をさせ、主語と述語のつながりを意識した文章が書けるように日記指導を行っている。 ・読み聞かせ、ブックトークを行うことで、読書の幅が広がってきた。	
	算数	・計算は正確にできるが、時間がかかる。 ・文章題から題意を読み取り、図や言葉などを用いて表現することに慣れてはきたが、自分だけが分かっていて、他者に伝える力が未熟である。	・計算練習が不足しているため、時間がかかっている。 ・表現の仕方（図や文、ノートの書き方、説明の仕方）の基礎が押さえられていない。	・モジュールの時間を活用し、小テストを行ってかかった時間を計測し、習熟を図る。 ・図や式、言葉をを用いて表現する活動を重視し、各単元において計画的に取り入れ、経験を積ませる。	・計算力が付いてきた。 ・乗法の学習が始まったため、既習の加法、減法とともに、文章題の意味を理解して立式できるよう、指導していく。 ・ノートに図や式、文で書くことが習慣付き、自分の考えをすすんで表現するようになってきた。	
3	国語	調 全体的に全国平均を上回っている。特に「かん字をよむ」と「せつめい文をよみとる」の正答率が高い。 調 他の観点に比べると「話す・聞く能力」の正答率が全国平均に近く、課題が見られる。 学 全体的に字を丁寧に書いているが、漢字の細かな書き間違いが多く課題が見られる。	・文章を書くことを課題にしている児童が多い。 ・話を正確に聞き取り、問題に答えることを課題にしている児童が多い。	・文章を書く際は、見本を示したり、短い文章から書かせたりすることで、苦手意識をなくし、定着を図る。 ・話を正確に聞き取るためには、日頃から人の話を最後まで聞くことを意識させる。また、大事なことを聞き落さないように意識しながら聞くことを指導する。	・文章を書く際に、見本や例文を提示しているので、書くことが苦手の児童も、自分の思いを書き表すことができるようになってきた。今後も継続していきたい。 ・授業では注意をこちらに引き付けてから話し始めることを徹底している。また、児童に発言させる際には、教師の方を向くのではなく、児童同士が顔を見ながら発言させるようにしている。	
	算数	調 「時こくと時間」では、全校平均を大きく上回っていて、しっかり定着していることが分かる。 調 他の領域に比べると「量と測定」の数値が低く、特に「長さ・かさ」に課題が見られる。 学 全体的に基礎的な計算問題を正確に解くことができている。「量と測定」では、様々な単位の量感を理解することに課題が見られる。	・身の回りにあるものの長さや量に当てはまる単位を答えることを課題にしていることが多い。 ・文章問題では、演算決定の際に立式の根拠を説明することが難しい児童が多い。	・授業で学習したことを日常生活の中で活用させ、長さやかさの量感をつかませる。 ・文書問題の演算決定をする際には、立式の根拠となるキーワードを全体で押さえる。そして、問題中の言葉から考えさせたり、問題場面を図に表現させたりすることで立式の根拠をもたせる。	・学習問題を身近なものに例えて考えさせるようしている。また、具体物で考えさえることも行っている。 ・文章問題では、「分かっていること」には実線（赤色）、「求めること」には波線（黒色）を引き、演算決定をやすくする支援を行っている。 ・毎時間、学習問題に対しての自分の考えを図や絵、文章を用いてノートに書かせ、全体で共有する時間を設けている。	

4	国語	調「読む能力」「知識・理解・技能」の「言語事項」は全国の平均より上回っている。漢字の書き取りや言語の意味の正答率が高い。 調観点別に見ると、「書く能力」については苦手意識がある児童が見られる。 学学習の様子や日記の課題を見ていると、順序立てて書く力は付いてきているが、文章にふくらみがなく、自分の考えや感想を書くことに苦手意識が見られる。	・書く活動では、何の目的で書くのが明確にならず、何を書いていいかわからない児童が多い。 ・自分の考えを表現することに苦手意識があり、筋道立てて話すことができる児童が少ない。 ・漢字の書き取りや言語の意味の正答率が高いが、字形を正しく整えられない児童が四分の程度いる。高い正答率に反し、作文等で漢字を活用できない児童も多い。	・分からない言葉を調べたり、漢字の熟語を調べたりする際に辞典を活用できるよう、調べる活動を入れていく。 ・新出漢字を学習する際に、熟語の意味調べや短文作りの活動を多く取り入れていくことで、漢字の習得及び書く活動への苦手意識を改善していく。 ・「書く」活動では、目的に応じて書く構成を考えさせ、プロットを意識した活動を取り入れていくことで、「書く能力」を向上させていく。 ・自分の考えや主張を順序立てて伝えられるよう、プロットを活用した表現活動も多く取り入れ「話す能力」を向上させていく。	・分からない言葉の意味や慣用句は、事典を使って調べる活動を行い、その後、自主的に辞典を活用する姿が見られた。 ・自分の考えを表現することに苦手意識がまだ高いため、ペアになったり、班になったりして表現する機会を増やしている。 ・プロットを明確にし、目的に応じて書く構成を考えさせている。 ・フラッシュカードを活用することによって既習事項の定着を図っている。また、漢字の再テストを実施することによって、正しい漢字を使える児童が増えたが、個人差がある。	
	算数	調領域「数と計算」「量と測定」では、全国を大きく上回っている。計算技能が定着していることが分かる。 調観点別に見ると、「数学的な考え方」の数値が低く、領域で見ると図形の技能にも、課題が見られる。 学学習の様子や出される課題を見ていると、文章題を正確に読み取り、演算決定する問題に苦手傾向がある。文章場面を読み取る力が十分に定着していない様子が見られる。	・図形の単元で作図の様子を見ていると、直線を引けない、コンパスが正確に使えない等、作図の仕方が分かっているにもかかわらず正確に作図できない児童が多い。 ・文章題を正確に読み取ることができていない。決まったパターンと違った聞き方をされると演算決定ができず、苦手意識をもってしまう児童が多い。	・図形の単元では、習熟に応じた少人数指導を行い、確実な時数の確保を行う。また、家庭学習にも定期的に出すようにし、定着を図る。 ・文章題の場面を図で表現する活動を取り入れる。児童同士で言葉や式、図で説明し合う活動を計画的に取り入れることで、数学的な考え方の力を伸ばす。また、授業中に補充問題として応用問題を解かせる。	・図形の単元では、家庭学習にも定期的に出すようにしている。正確な作図ができない児童は個別で対応している。 ・基礎は身に付いているが、未だ文章問題などの発展問題に躓く児童が多い。設問の意図をしっかりと捉えられるよう、導入でその意図を理解させてから自力解決に取り組ませている。	
5	国語	調領域「読むこと」の正答率は、全国平均を大きく上回った。特に「物語の内容を読み取る」や「説明文の内容を読み取る」は正答率が高い。 調「知識・理解・技能」の「言語事項」が他の領域と比較すると標準スコアに近い。 学文字を書くのに時間がかかり、バランスのよい字を書くことに課題のある児童が多い。漢字の読み書きや慣用句、熟語の意味などが十分に定着していない状況が見られる。	・漢字の定着率が低いことと、語彙の少ない児童が多い。 ・熟語の意味などを知らない児童が多い。 ・起承転結、始め、中、終わり等の構成を考えた作文を書くことに課題がある。	・各学級担任が1週間に一度漢字の小テストを行い、定着を図る。未習熟の児童に関しては、再テストを行い、1週間以内に定着できるように繰り返し指導を行う。 ・国語辞典を使う場면을定期的に作り、熟語の意味などを理解させる。また、宿題ノートを活用し、意味をまとめさせる。	・漢字の小テストを1週間に一度行うことで定着度が高くなってきた。平均点で90点を超えることが多くなった。また、再テストを自らすすで行う児童が増えてきた。 ・語彙の少なさはまだあるので今後も意味調べ等の活動を継続して行う。 ・朝の1分間スピーチを活用して、聞き手を意識した果たし方ができるようにしていく。	
	算数	調領域「量と測定」では全国を大きく上回り定着していることが分かる。 調「数量や図形の技能」が全国平均に近く、経年変化でスコアを大きく下げた原因と思われる。全体的な底上げが必要である。特に概数の表し方、割り算への理解を深める必要がある。 学提出される課題等を見ると、できていない児童が見られる。特に作図ができていない状況が見られる。	・作業を伴った授業の際に、正確に立体を作ったり作図したりすることが難しい。 ・算数の公式等の定着が図られていない。 ・計算問題等の誤答が多い。	・担任や少人数指導担当が各々の授業時間内に繰り返し作図の学習を取り入れて定着を図る。 ・公式等が定着するまで教室内に公式を掲示する。 ・繰り返し計算ドリルを活用し、家庭学習等で何度も練習問題に取り組ませる。	・担任や少人数担当で工夫をして実態に応じた指導を行っている。 ・分数の計算の中で、約分・通分での間違いが多くみられる。数を見たときにどの数で割れるか、最小公倍数は何かなどを理解することが難しい。今後は計算ドリルなどを活用して繰り返し学習を行う中で知識・技能等の基礎・基本を身に付けさせたい。 ・単位や計算の間違いなどが多いので見直しをするよう声掛けを続ける。	
6	国語	調全領域において全国平均を上回り、特に「話す・聞くこと」「読むこと」の正答率は、全国平均を大きく上回った。 調「書く能力」が他の領域と比較すると標準スコアに近いので課題点と感じられる。 学漢字の読み書きや慣用句、熟語の意味などが十分に定着していないため、書く力にバラつきが見られる。	・漢字の定着率が低いことと、言葉を知らない児童が多い。 ・熟語の意味などを知らない児童が多い。 ・書いた文章の意味が分かりにくい児童が多い。	・1週間に一度漢字の小テストを行い、定着を図る。未習熟の児童に関しては、再テストを行い、1週間以内に定着できるように繰り返し指導を行う。 ・授業中、自分の考えをノートに文章でまとめさせることで、語彙や熟語の習得をさせる。その際、国語辞典を使う場면을定期的に作り、熟語の意味などを理解させる。 ・手紙の書き方を宿題にし、継続して添削することで文章力を身に付けさせる。	・漢字の小テストを1週間に一度行うことで定着度が高くなってきた。平均点を90点を超えることが多くなった。また、再テストを自らすすで行う児童が増えてきた。 ・教科を問わず、自分の考えをまとめる活動を多くとっている。意味についても調べる時間をとるようにしていく。 ・継続していくことで、確実に文章の書き方が身に付いてきている。	

	算数	調 全領域において全国を上回り定着していることが分かる。特に量と測定において全国平均を大きく上回っている。 調 観点別に見ると、「数学的な考え方」が苦手な傾向にあり、領域別では図形領域に課題が見られる。 学 作図等に課題が見られ、計算問題の処理に大きな開きが出てきているように感じる。	・作業を伴った授業の際に、正確に立体を作ったり作図をしたりすることに苦手意識がある。。 ・面積など公式は覚えているが、公式の意味を説明できない児童が多い。	・担任や少人数指導担当が各々の授業時間内に繰り返し作図の学習を取り入れて定着をさせる。 ・授業中に考えをノートに書き、友達と説明し合う時間を多くとることで、数学的な考え方を表現する力を定着させる。	・担任や少人数担当で工夫をして実態に応じた指導を行っている。 ・考えをノートにまとめ、友達と説明し合う時間を多く取ることで、確実に定着してきている。	
音楽	学 （3～6年）音楽における歌唱・器楽の基礎的な技能はおおむね身に付けているが、豊かに表現しようとする能力をさらに高めていく必要がある。	・自分なりに表現しようという意欲がまだ十分ではない。 ・自己の振り返りが不十分で、次の活動へのつながりを感じられていない。	・よりよい表現ができた時に感じる達成感を大切にし、そのような場面を共有できるような教師の言葉掛けをしていく。 ・ワークシートや振り返りカードの有効活用、また友達との相互評価の仕方を工夫し、自己や児童同士で表現を高め合えるような環境を整える。	・それぞれの教材で、気を付ける課題を明確にすることにより、具体的な言葉掛けをすることができた。 ・ワークシートでの自己の振り返りやペア活動での感想タイムなどを繰り返し行うことで、自己や児童同士での表現の高め合いが少しずつできるようになってきている。		
図工	・発想や構想を広げ、自分なりの表現を深めるための活動をさらに行っていく必要がある。	・様々な材料を使う体験を行うことに課題がある。	・導入や提示する資料などを工夫し、発想が広がるようにする。工夫している児童の作品を認め、他の児童にも紹介し、発想の広がりや意欲へとつながるようにする。	・板書や提示する資料などを活用して活動の視点が明確になるようにしている。様々な材料体験を重ねることで、少しずつ個々の表現が広がりつつある。		
特支	・まなびの教室利用児童の実態を的確に把握し、低学年は特性に応じたベースアップを中心に、中学年、高学年は学年の学習や生活に適応しやすいような指導を行う。また在籍学級での個別的な配慮、ユニバーサルデザインの視点をともに考えるようにする	・低学年は課題の把握に努める。特に今年度は言語理解、コミュニケーションや書字などに課題のある児童が多い	・学習や人間関係作りの基礎となる言語理解力を伸ばし、相手を意識した関わりを育てる。絵カードや表情カード、気持ちよくなる言葉掛けなどを視覚的に理解しやすいよう工夫する。	・低学年では言語理解を様々な方法で伸ばし友達とのかかわり方の基礎が培われている。中高学年では個別にソーシャルスキル学習を復習することで成果の出ている児童がいる。 ・ゲームを利用し、関わり言葉の習得や状況の理解を楽しみながら学ぶ場を設けるようにした。		

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2 ページ以上となってもよい。